神石高原町
JINSEKIKOGEN TOWN

令和元年度　成人式

記念講演会

1976 モントリオール五輪

体操男子団体金メダリスト　藤本俊氏（神石高原町ご出身）

夢・感動「オリンピックとわが人生」

二十歳を迎える君に、いま、伝えたいこと

一般聴講可能
入場無料
要事前予約

とき：8月15日（木）11：00～12：00（受付10：45～）

会場：さんわ総合センターやまなみ文化ホール

☎お問い合わせ　まちづくり推進課 0847-89-3332

藤本 俊様プロフィール
（ふじもと しゅん）
1950 年生まれ、広島県神石郡出身、元体操競技選手、山梨学院大学教授。
1976 年モントリオールオリンピック体操男子団体金メダリスト。

略歴[編集]
1969 年 3 月 清風高等高校卒業
1973 年 3 月 日本体育大学卒業
1975 年 12 月 紀陽銀行退社
1976 年 1 月 国立大学 山梨大学 助手
2016 年 3 月 国立大学 山梨大学 定年退職
2016 年 4 月 国立大学 山梨大学名誉教授称号授与
2016 年 4 月～現在 山梨大学・山梨学院大学・身延山大学 非常勤講師

競技歴
1968 年 8 月 全国高校体操競技選手権大会 団体総合準優勝
1970 年～1973 年 全日本学生体操競技選手権大会 団体優勝
1974 年 10 月 世界体操競技選手権大会 団体優勝
1974 年 11 月 全日本体操競技選手権大会 紀陽銀行団体初優勝
1975 年 7 月 プレ・オリンピック大会 個人総合 2 位
1976 年 7 月 オリンピック大会 団体優勝

受賞
1976 年 功労賞 内閣総理大臣
1976 年 功労賞 文部大臣
1976 年 日本スポーツ賞 読売新聞
1976 年 朝日賞 朝日新聞
1976 年 勇敢賞 カナダオリンピック委員会 他 15 篇
2017 年 5 月 国際体操殿堂入り（日本人 13 人目）

1976 年（昭和 51 年）のモントリオール五輪で、藤本はゆかでひざの半月板を痛めたが、藤本の状態を心配することでコーチやチームメートのソビエト連邦との金メダル争いに対する集中力が欠けることを心配してそれを黙っていた。
続くあん馬で 9.5、つり輪でも 2.5m ほどの高さからの着地も決めて 9.7 の高得点をマーク。
しかし、つり輪の演技終了後、ついに演技続行は不可能となった。
日本チームは背水の陣を余儀なくされたが、藤本のあげた高得点もあり、日本はソビエト連邦を 0.4 点という僅差で退けて金メダルを獲得した。
数年後、藤本はもう一度同じことができるか聞かれたが二度とできないだろうと答えている。
後日、右膝にひびが入っていることが判明した[4]。藤本は、カナダオリンピック委員会から、「勇敢選手賞」を与えられている。

一部参考出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』